

※収量の安定、向上:目標420kg以上／10a

●稲ワラすき込みで地力増進 ●土壌診断を行い酸性矯正

※実需者が求める品質の向上:Aランク麦づくり

●適期の穂揃い期追肥でタンパク質含有率向上 ●ちくしW2号は12%以上

※赤かび病を出さない

●適期防除の徹底 ●ちくしW2号は2回散布

※農薬の安全使用と隣接する作物への飛散防止の徹底

〔主な病害〕

赤かび病

アメリカフウロ

スズメノテッポウ

〔主な雑草〕

キンボウゲ類

ミチヤナギ

カズノコグサ

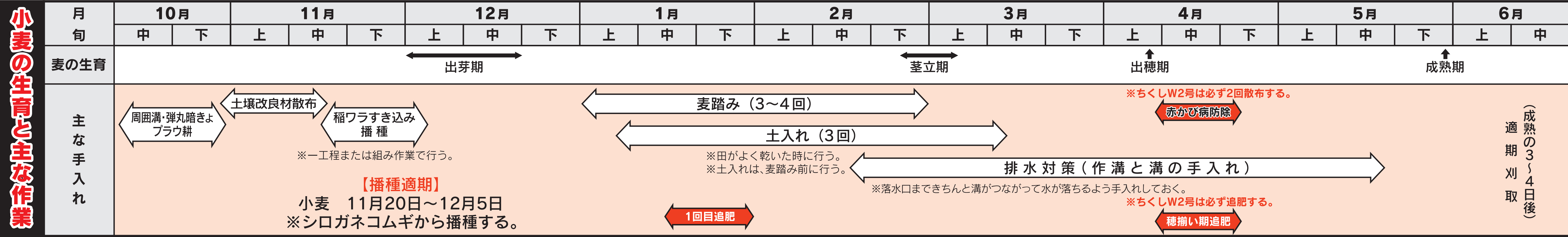
4葉期

1.5葉期

4葉期

ヤエムグラ

カラスノエンドウ



1. 土づくり

土壌改良材散布

時 期	土壌改良材	散布量kg/10a	備 考
播種前	生石灰	100	目標pH 6.0～6.5
	苦土石灰	200	
	オイスターミネラル	100～200	

●土壌診断を行いましょう。酸性矯正には生石灰を散布します。

2. 種子の準備と播種

異種混入が発生すると販売が困難になるので
毎年必ず種子更新を行いましょう!!

(1) 種子消毒

対象病害虫	薬 剤 名	処理方法および処理時間
ヤギシロトビムシ	(劇)アドマイヤー水和剤	乾燥種子10kgあたり15gを種子粉衣する。 (0.15%)
	クルーザー FS30	乾燥種子10kgあたり60mlを種子塗沫する。
斑葉病、裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートTコート	乾燥種子10kgあたり50gを種子粉衣する。 (0.5%)

※クルーザーFS30は、前年度ヤギシロトビムシが多発したほ場に使用する。

(2) 播種時期と播種量(ドリルまき)

品 種	播 種 適 期	播種量(10a当たり)
小 麦	11月20日～12月5日	6.0kg～7.0kg (4升3合～5升)

●大豆あとの播種量は上表基準量より10a当たり1kg減量する。
●深まきにならないように、2～3cmくらいの覆土がよい。
●バラ播は2割増とする。

3. 踏圧(麦踏み)

時期:1月上旬～2月下旬(本葉3～4枚～節間伸長開始前まで)

●乾燥が続いて、土壌が乾燥している時の午後、茎葉水分含量の少ない時に実施する。
●土がしまり麦の生育に悪いので、土壌が湿っている時は行わない。

麦踏み開始時期の麦の様子

3葉目

分けつ

2葉目

1葉目

4. 土入れ

時期:1月上旬～中旬(本葉3～4枚)、2月上旬頃、3月上旬頃

●1回目は浅く、2回目、3回目と麦の生育に伴って土入れの量を増す。
●土入れは麦踏み前に行う。晴天続きのよく乾燥した時に行う。
●土入れは倒伏防止・雑草防除に効果があるので必ず実施する。

5. 施 肥

品 種 名	基 肥 (10a当たり)	追 肥 (10a当たり)	
		1回目	穂揃い期
シロガネコムギ (小麦)	ちくごのめぐみ 444 40kg (大豆あとは20kg)	麦追肥一発2号 40kg	—
ちくしW2号 (小麦)	ちくごのめぐみ 444 40kg (大豆あとは20kg)	硬質小麦専用追肥 (3004) 30kg	

●大豆あとの場合、基肥量半分にする。
●ちくしW2号については穂揃い期追肥(出穂後7～10日)を必ず行って下さい。(2回目は、1回目の穂揃い期追肥の7～10日後に行う)

6. 赤かび病防除

品 種 名	散 布 時 期	使用薬剤及び10a散布量	使用回数
シロガネコムギ (小麦)	出穂後7～10日(開花期) ※収穫14日前まで	トップジンM粉剤DL 4kg 又は トップジンM水和剤100g/水100L (希釈倍率1000倍)	1回
ちくしW2号 (小麦)	1回目:出穂後7～10日(開花期) 2回目:1回目防除の1週間後 ※収穫14日前まで		2回

●シロガネコムギは、開花期に雨が多い場合、上記散布時期の7～10日後に2回目の防除を行う。

7. 雑 草 防 除

区分	薬 剤 名	処理時期	10a当たり 使 用 量	適 用 雑 草					使用上の留意事項
				イネ 雑草	ノミノ フスマ	ミチヤ ナギ	ナズナ	ヤエム グラ	
土壌 処理	ラウンドアップマックスロード バ ス タ 液 剤	は種前～ 出芽前まで	500ml	●	●	●	●	●	周辺への飛散防止を徹底する。 ※ラウンドアップマックスロードは、水50ℓに希釈する。
	リベレーターフロアブル	は種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科 雑草1葉期まで)	60～80ml	●	●	●	●	●	乳剤、粒剤ともに大雨の前後には使用しない。
茎 葉 処 理	リベレーターG	は種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科 雑草1葉期まで)	4～5kg	●	●	●	●	●	は種後はできるだけ早く処理する。
	ハーモニー細粒剤F	は種後～麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	4～5kg	スズメノ テッポウ	●	●	●	▲	ハーモニー細粒剤Fをつかった場合、 ハーモニー75DFは使えません。
葉 処 理	ハーモニー75DF	は種後～ 節間伸長前	5～10g	スズメノ テッポウ	●	●	●	●	ミチヤナギ、ノミノフスマ、キンボウゲ類、 アメリカフウロに効果高い。
	バサグラン液剤	小麦の生育期 (雑草の3～6葉期) 但し収穫45日前まで	100～200ml	—	●	▲	●	●	キンボウゲ類に効果高い。
	アクチノールB乳剤	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	100～200ml	—	●	▲	●	●	カラスノエンドウに効果高い。 ミチヤナギについては早め(本葉3葉まで)に散布する。

●除草剤の液剤を使用する際は、上記の10a当たりの薬量を水100ℓに希釈して使用して下さい。
●ハーモニー剤は抵抗性のあるスズメノテッポウには効果がありません。

カズノコグサ対策

●カズノコグサは排水不良の圃場で多発するので、は種直後の土壌処理剤(リベレーター)の散布と土入れ、
溝埋りによる圃場の乾田化を組み合わせで防除する。

カラスムギ対策

●カラスムギ対策のために夏場に湛水または稲作をする。

8. 品種特性表

品種名	出穂期	成熟期	穂数／㎡	耐倒伏性	穂発芽性	収量kg／10a	赤かび病耐病性
シロガネコムギ	4月8日	5月29日	522	極強	易	480	中
ちくしW2号	4月8日	5月29日	482	強	難	497	やや弱

※引用元:出穂期、成熟期(現地のデータ)、それ以外(福岡県農林業総合試験場データ)

※作業日誌・生産工程管理チェックシートは別に配布しますので、必ず記帳をお願い致します。